

# 生活や社会の中の美と豊かに関わり、 自分を高める児童生徒の育成

—広がりのある問いを設定した活動を通して—

図画工作・美術科研究会議

研究員 田口 雅之（川崎市立新城小学校）

石川 裕貴（川崎市立稗原小学校）

湯瀬 明意（川崎市立渡田中学校）

安田 薫（川崎市立菅中学校）

指導主事 長澤 秀行

## I 主題設定について

児童生徒の身の回りには、自然が生み出した美のみならず街中でみかける看板などにあるように、多様な美や様々な工夫が隠れている。このような多様な美に、造形的な視点を持ち自分の感性を働かせて積極的に関わったり生み出したりする資質・能力を育成することは、自分の人生を豊かにしていく上で必要なことだと考える。学習指導要領解説美術編の美術科改訂の趣旨と要点においても、「生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての理解を深める学習の充実を図る。」と示されている。しかしながら、表現し鑑賞することだけに目が行ってしまう授業になりがちで、題材を通して身に付けた力を生活や社会の中の美に豊かに関わったり生み出したりすることにつなげられずに、授業内に閉じてしまっていることに原因があるのではないだろうか。また、児童生徒が作品に表現したり鑑賞したりしても、表現に自信がなかったり、達成感を得られなかったりすることで、自分の表現や鑑賞を肯定的に捉えられないなどのことから、「とりあえず完成すればよい」という思考を生み、身の回りにある美と豊かに関わったり生み出したりすることにつながっていないとも考えられる。これらを踏まえ、本会議では育成を目指す児童生徒を、「生活や社会の中の美と豊かに関わり、自分を高める児童生徒の育成」とした。なお、「自分を高める」とは、表現に自信をもったり、達成感を感じたりするなど、自分自身の表現や鑑賞を肯定的にとらえることと、本会議では設定した。

本会議では、教師の投げかける発問がわずかに異なることで、児童生徒の表現や鑑賞がねらいからずれてしまっていることが多いのではないかとということが挙げられた。そこで、生活や社会の中の美と豊かに関わる資質・能力の育成を目指して、造形的な視点を意識しながら多様な表現や鑑賞を生み出せるような「発問」の在り方を研究することとした。このような「発問」を、本会議では「広がりのある問い」と呼ぶこととした。児童生徒は、「広がりのある問い」をきっかけとして豊かに表現や鑑賞をしていくと推測される。この過程で自分の表現を見付けたり考えを持ったりした際に教師が意識的に価値づけ、児童生徒が自分の表現や鑑賞を肯定的に捉え、自分を高められるようにする。このことを踏まえ、副主題を「広がりのある問いを設定した活動を通して」とした。

## II 研究の内容

**1 研究構想図** 研究にあたり、生活や社会の美と豊かに関わる資質・能力、自分を高めること、児童生徒の資質・能力の高まり、授業を構想する手順、手立てを研究構想図(図1)にまとめた。生活や社会を表す外枠の中に、授業を内枠として表した。児童生徒の資質・能力の高まりを太い上向き矢印で示し、生活や社会の中の美と豊かに関わる資質・能力と自分を高めることに向かっていることを表している。授業を構想する手順を白抜き四角と矢印で示した。造形的な見方・考え方を働かせるための教師が行う手立てについては、丸で示した。本会議の中心となる「広がりのある問い」は、この手立ての中のの一つとして考える。児童生徒は、教師の多様な手立てを

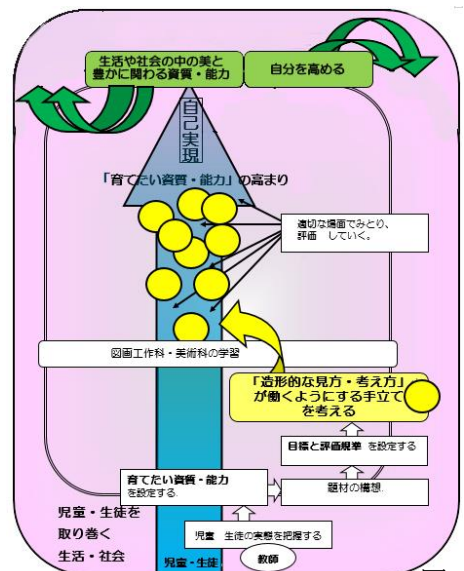


図1

受けながら豊かに表現及び鑑賞し、作品を完成させるなどして自己実現をなし、生活や社会の中の美と豊かに関わる資質・能力を獲得したり自分を高めたりすることにつながっていく。育成された資質・能力を発揮して、外枠に表した生活や社会の中の美と豊かに関わっていくことを一番上の曲がった矢印で示した。この構想図を意識しながら、授業の構想を練り研究を進めることとした。

## 2 研究の方法

児童生徒の変容について、作品やワークシートや授業後のインタビューから見取り、検証することとした。

## 3 研究の実践

### (1) 検証授業Ⅰ (小学校 第3学年 5時間)

①題材名『1まいの葉から広がる世界』A表現(1)イ(2)イB鑑賞(1)ア〔共通事項〕(1)ア、イ

#### ②題材について

6月に「6月の絵」の題材を実施したが、発想を広げたり自分自身を入れて表現したりすることに課題があった。このような児童の実態に合わせて、身近な自然の美の一つである校内の葉の中から、お気に入りの1枚だけを選んで十分に鑑賞を深め、思いを広げてよりよい表現につなげていけるような題材を設定した。また、本校では「地域や社会など身近な課題について自分の考えをもって関わる子の育成」を掲げており、身近なものから題材を設定することで、自分ごととして関わられることを意図した。

本題材は、造形的な見方・考え方を働かせながら自然を見ることで、特に、自然のもつ様々な形や色や多様な造形があることに気付かせたい。自分が「美しい」「きれい」と思った葉を1枚だけ選び鑑賞するだけでなく、連想ゲームのような鑑賞遊びも取り入れる。自分がよいと思ったものを友達に伝える活動を通して、児童のもつ資質・能力をさらに伸ばし、感じ取った思いを表現につなげることで、児童の思いを表現する力を伸ばし、生活や社会の中の形や色と豊かに関わられるようにしていきたい。

#### ③「広がりのある問い」の設定

ねらい	具体的な問いかけの言葉
1枚の葉との出会わせ方を工夫する	1枚だけ「これに決めた！」という葉はあるかな。
自分や友達の葉をじっくり鑑賞する	①葉に名前をつけよう！②葉をプレゼントするなら誰？③葉と一緒にいきたい場所は？
鑑賞したことを表現につなげる	1まいの葉から広がる世界をかこう。自分の葉が主役の世界、自分の葉がかがやく世界・・・想像してみたことをかこう。

#### その他の手立て

手立て	手立ての詳細
1枚のカードで鑑賞しながら遊ぶ	形や色に着目して葉の名前を考えたり、連想ゲームをしたりして、自分や友達の葉をじっくり鑑賞した。
絵に表すために絵の具の技法を選ぶ	同じ濃さでぬる、水の量を変えてぬる(グラデーション)、線の太さを変えてかくなどの技法を掲示し、自分で表したいことに合わせて技法を選ぶようにした。
題材名からイメージをふくらませる	「1まいの葉から広がる世界」という題材名で、葉のその先にどんな世界が広がっているのか想像でき、葉も画面のどこに配置するか考えられるようにした。

#### ④生活や社会の中の美に関わる児童の姿

「広がりのある問い」を通して、自分が「美しい」「きれい」と思った葉を1枚だけ選んで友達と鑑賞することによって、身の回りの自然には、面白い楽しい、おかしな形や色の葉があることに気付く姿が見られた。友達の葉も鑑賞することで、今まで気づかなかった自然の造形の美しさに興味をもつ児童も多く見られた。

#### ⑤自分を高めることに関連する児童の姿

自分の選んだ葉を鑑賞する活動をすることで、自然と自分や友達の持ってきた葉のもつ自然の形や色の

よさを認め合う姿が見られた。全員の葉を一つに集め、その中から自分が選んだ葉を探しだす活動の際も、その中から自分の葉を再び選び取ることができた。葉の形や色を捉え自分にとって特別なものになっていたのだといえる。「自分の葉でどんなことがしたいか。」と問うと、思い思いに自分のしたいことを発言していた。今回は、自分の葉から広がる世界を想像することで、自分の思いを絵にこめられるように授業を展開した。自分と葉を同一に考える児童もいて、絵の中に自分自身と葉を入れたり、絵の中の見えない先までかこうとしたりするなど、これまでの絵の授業に見られなかった児童の姿が見られた。表したいことを表すことを繰り返しながら教師が価値づけていくことで、自分の表現に満足する姿が見られた。このような姿から自分が高まっていったと考えられる。

⑥まとめ

以前に行った絵に表す活動では、思うように表せなかったり、自分自身を絵の中に入れたりすることに抵抗がある児童が多かった。「広がりのある問い」をきっかけに鑑賞を行い表現につなげたことで、表したいことを自分ごととして捉えて表現した児童が多く見られた。絵の中に自分を入れたり、その先の世界を想像し絵に表したりしていた。「広がりのある問い」をきっかけとして表したいことが広がったがゆえに、実体験を伴った技法の指導(図2)を発達段階に応じて適切に行っていく必要性を感じた。



図2

(2) 検証授業Ⅱ (小学校 第3学年 6時間)

①題材名『クリスタルモンスター』A表現(1)イ(2)イ B鑑賞(1)ア【共通事項】(1)ア、イ

②題材について

年間指導計画をもとに、児童の実態に合った題材を考えた。また、本題材では日本文教出版の教科書の「クリスタルアニマル」をもとに「モンスター」と題材名を変えることで、より多様なイメージをもてるようにした。普段の生活や社会の中にも、「光を通すことで美しい」ものがあることに気づき、美しさを見出し、豊かに関わっていかうとする子どもを育成することをねらいとした。

本題材では、身近にある光を通す材料に光を通したり組み合わせたりしながら、自分なりに工夫しモンスター(生き物)をつくる。そのモンスターが光で輝くようにLEDライトを当てて、自分のモンスターのよさを引き出したり、友達の作品のよさや面白さを味わったりしていく。

- ・発見されたクリスタルモンスター編(題材との出会い・材料集めへ)、1時間
  - ・誕生!クリスタルモンスター編(図3)(つくる)、4時間
  - ・集まれ!そして光れ!!クリスタルモンスター編(鑑賞する)、1時間
- という流れで学習活動を組み立てた。

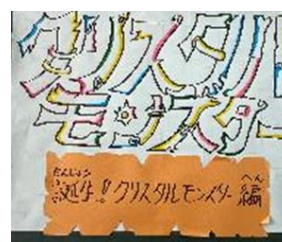


図3

③「広がりのある問い」の設定

ねらい	具体的な問いかけの言葉
身のまわりの様々な形のプラスチック容器などに目を向ける	世界にはどんなクリスタルが眠っているのだろうか?
形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて想像し、考えながらつくる	発見したクリスタルモンスターはどんな姿?
クリスタルアニマルの形と輝き方に目を向けられるようにする	みんなが発見したクリスタルモンスターの姿や光り方はどうなっているのだろうか?

その他の手立て

手立て	手立ての詳細
ストーリー仕立ての学習活動	様々な形のプラスチック容器などの材料を集めることから、自分だけのクリスタルモンスターをつくり鑑賞するところまで、

	主体的に学べるようにした。
ヒントコーナー	ヒントにしなが、つくりたい形の実現に向けて創造的な技能を發揮できるようにした。
光れ！クリモンボックス	つくっている形がイメージ通りに光るか見ながら試行錯誤し、よりよい形を追求できるようにした。

#### ④生活や社会の中の美に関わる児童の姿

「広がりのある問い」をきっかけとして、児童はプラスチック容器を「クリスタル」と意識するようになったことで、「身のまわりにある身近なもので、クリスタルモンスターをつくりたい」、「なんで透明だときれいに見えるんだろう」、「使うプラスチックにより、見た目がすごく変わるのかな、と思った」などの発言があった。本題材の学習を通して、普段の生活や自分たちがいるこの社会の中にも、「光を通すことで美しい」ものがあることに気付いていた。そして、そこに美しさを見出し、豊かに関わろうとしていた。

#### ⑤自分を高めることに関連する児童の姿

育てたい資質・能力が高まるとともに、本題材の学習を通して、自分を高めることにつながっていたと考えられる。「この図工で考える力がついた」、「くっつける力がついたから、次の図工でもいかせたらよい」、「自分の好きなものが形になっていってすごく嬉しいって思った。想像していたものと違ってすごかったので、自分でもびっくりしてしまった」、「これでもいいんだ。って自信をもてたし、楽しい経験もできた。みんなと2021年の思い出がまたできて、この人生を楽しく嬉しく、この世界を楽しく歩めるんじゃないかと思って楽しかった」など、活動の様子やこれらの言葉から、自分を高めることにつながっていたと考えられる。

#### ⑥まとめ

「広がりのある問い」をきっかけとして、造形的な視点を基に自分のイメージをもちながら、透明な材料を組み合わせ、そこから感じたことや想像したこと、表したいことを見付けていた。「クリスタル」から「モンスター」をつくるストーリー仕立てにし、試行錯誤できる場を設けたことで主体的な学習活動になり、自分の表現に自信を持つなどして自分を高めることにつながっていた。「ひろがりのある問い」や児童の実態に合わせて問いかけることで、「考えを深める」題材になり次の学びにつながる成果が得られた。

一方で、切ったものを接着していく表し方をあまりしていなかったように感じた。プラスチックという固いものを切るということに対する、心構えや技能的な支援がもっと必要であった。また、「発見したクリスタルモンスターはどんな姿？」という問いにより、どれくらいの児童が「姿」という言葉をきちんと意識できていたのかということについては、さらなる検証が必要であるといえる。

### (3) 検証授業Ⅲ (中学校 第3学年 12時間)

#### ①題材名『今、私は・・・ ～自分史に刻む自画像～』

A表現 (1) ア(7) (2) ア(7)(4) B鑑賞 (1) ア(7) 【共通事項】(1) ア、イ

#### ②題材について

年間指導計画の中で、進路選択を控えた中学校三年生という実態を踏まえ、自画像を通して自己の内面を表す題材として設定した。中学校3年生にとって自画像は、人生の岐路に立つ自分自身と向き合う活動であり、造形的な見方・考え方を働かせ、在り方や生き方について模索する活動になると考えた。

本題材では、自分自身の顔を見つめ感じ取ったこと、考えたことや自分自身の夢や理想などの心の世界を基に主題を生み出し、造形的な要素をもとに構成し、心豊かに表現する構想を練っていく。自分自身の内面に潜む思いや考え、感情について形や色彩として捉えながら表現していく。

#### ③「広がりのある問い」の設定

ねらい	具体的な問いかけの言葉
ワークシートを工夫し、主題を考えることにつなげる(図4)	「自画像で表したいことを見つけるために様々な視点から

	考えましょう。」
油性絵の具、紙、布、水性絵の具、パステルなどの様々な画材や用具の用意をして意図に応じた表現の工夫につなげる	試行錯誤しながら表現できるように、「どの材料に興味を惹かれますか？様々な材料を試してみてもより良い表現方法を見つけましょう。」

### その他の手立て

場面	学習活動	手立ての詳細
題材の把握	題材と出会い、学びに対する問いをもつ	本物の作品を用いた対話型鑑賞を実施した。
主題をもつ活動	表現活動へ向けて発想や構想を練る	主題を生み出すためのワークシートの工夫をした。
表現活動	様々な材料や用具を用いて自画像を表現する	試行錯誤しながら表現できるように場の設定や、授業記録シートを工夫した。
鑑賞活動	互いに作品を鑑賞する	ワークシートや場の設定を工夫した。

本題材では場面と学習活動から、手立ての具体的内容を位置付けた

### ④生活や社会の中の美に関わる児童の姿

本題材は生徒にとって一番身近な美である「生徒自身」を描く題材であり、生活や社会の中の美を感じ取ろうとする姿が見られた。

### ⑤自分を高めることに関連する児童の姿

教師の声かけ、「広がりのある問い」、ワークシートの工夫、様々な材料を準備したことが、生徒が表現に取り組む際の安心感と自信をもつことにつながった。自己を見つめ心豊かに表現する活動となった。

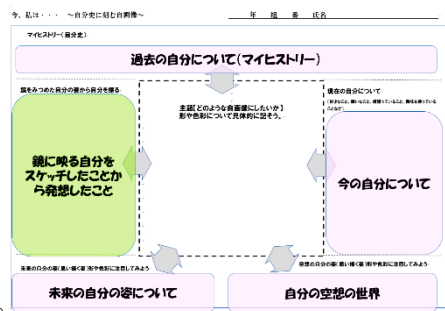


図 4

### ⑥まとめ

題材のねらいを掴む活動から、自画像の本制作まで、計画的に「広がりのある問い」と「手立て」を設定することで、生徒が表現活動において安心感と自信を持って表す姿や試行錯誤して構想する姿が見られた。自分の表現に自信を持ち、自分を高めることにつながれたと考えられる。表現の構想段階のステップを多く設定しすぎたことが課題として挙げられる。様々な材料で表す活動を充実させ、試行作誤する中で主題を見つけていく展開について、成果は得られたものの検討が必要と考える。また、生徒一人一人の活動に合わせた「問いかけ」と「手立て」を、表現の高まりに合わせて設定していく必要があると考える。

## (4) 検証授業Ⅳ (中学校 第2学年 1時間)

### ①題材名『魅力を伝えるパッケージ』 B鑑賞 (1) ア(イ) 【共通事項】(1) ア、イ

### ②題材について

年間指導計画の中で、発想や構想に関する資質・能力と鑑賞に関する資質・能力とを総合的に働かせて学習が深められるようにするため、A表現『(株)〇〇製菓』～形と色彩で表現するパッケージデザイン～の授業に取り組む前に、B鑑賞『魅力を伝えるパッケージ』の題材を設定した。また学校の研究テーマ、「わかる授業をめざして」～教える授業から考えを促す授業へ～を踏まえ、身近な商品のパッケージの鑑賞から表現の意図や創造的な工夫などを考え、見方や感じ方を深めることができると考えた。身近にある商品のパッケージを持ち寄り、デザインされた文字や全体の形や色彩から受ける印象について感じ取り、他者との対話活動等を通して表現の意図や創造的な工夫などを考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。

### ③「広がりのある問い」の設定

タイミング	題材前	課題の把握	ウォーミングアップ	まとめ
声かけ・問いかけのねらい	授業の前から関心をもたせる	色彩や文字の形に注目することができるようにする	色彩や文字の形から受ける印象を考えることができるようにする	色彩や文字の形の視覚的効果や感情効果に気づかせ、興味をもたせることができるようにする



声かけ・ 問いかけ	「さまざまな種類の商品のパッケージを集めてください。詳しくは、美術室の前の見本をみてください。」	「値段も味も原材料も品質もすべて同じ飲み物があります。でもパッケージは違います。どの商品を選びますか?」	「お題にピッタリだと思うパッケージを選んでください。」	「商品のパッケージにどんな思いや伝えたいイメージが込められているのでしょうか。」
--------------	--	--	-----------------------------	--

#### ④生活や社会の中の美に関わる児童の姿

鑑賞題材に向けた表とした

普段は意識して見ることが少ない生活の中のデザインの形や色彩の視覚的効果や感情効果に気づかせたいと思い、この題材を設定した。生徒は「広がりのある問い」をきっかけとして、形や色彩を意識しながら鑑賞を深めていた。「心理学的な効果もしっかり計算しているのがわかった。」「これからは文字の形や色彩にも少し注目してみようと思った。」と、形や色彩の視覚的効果や感情効果に気付く姿が見られた。身の回りの生活を豊かにするデザインに興味をもたせることができた。

#### ⑤自分を高めることに関連する児童の姿

本題材で学習したことを生かして次に行う表現の題材で、文字の形や色彩のイメージ、パッケージデザインなどについて学習した。さらに見方や感じ方を深めながら制作を進めるなどして、自分の表現に自信を持つなど、自分を高めている姿が見られた。

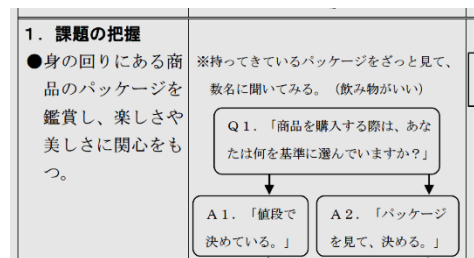


図5

#### ⑥まとめ

ねらいを明確にした授業を進めていく上で、教師側の声かけや「広がりのある問い」を工夫する必要があると思い、学習指導案の学習の展開に「声かけ・問いかけ(例)」を位置づけてみた(図5)。授業の流れを修正し、生徒が造形的な見方・考え方を働かせてねらいに迫っていく手立てとして有効だと感じた。対話的な学びを通してねらいに迫るため班での鑑賞活動中心としたが、次に行う表現の題材のことを考えると、個々の見方や感じ方をもっと大切にしたい授業を展開していく必要があった。また、[共通事項]への気付きは見られたものの、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫を考えることに関しては不十分だったといえる。

### Ⅲ 研究のまとめ

#### 1 研究の成果

検証授業を通し、「広がりのある問い」をきっかけとして、児童生徒が自分なりの表現や鑑賞を広げている姿が見られた。また、生活や社会の中の美に気付き豊かに関わろうとする児童生徒、安心して表現したり、達成感を得たりするなどして、自分を高めることにつながられた児童生徒を活動の様子や授業後のインタビューから見取ることができた。なお、「広がりのある問い」を設定する際、形や色彩などの造形的な視点を意識し、表し方を限定しないような問いにすることが、効果的だったといえる。

#### 2 研究の課題と今後に向けて

本研究では、造形的な見方・考え方を働かせながら表現と鑑賞を広げ、資質・能力を育成できるような「広がりのある問い」を中心として検証した。しかし、「広がりのある問い」がすべての児童生徒にとって有効とは限らない。今後は、児童生徒一人一人に合わせた「広がりのある問い」の在り方について研究していく必要があるといえる。また、教師の「広がりある問い」をきっかけとして、児童生徒が互いに「問いかけ」あったり手立てを示しあったりする姿も見られた。これを踏まえ、個々の学習を深めながら、達成感を得られたことや新たな発見や価値の創造などについて互いに共有しあう対話的な学習が、自然と促される視点を加味した「広がりのある問い」や手立てを研究することが、今後の発展的な課題と捉えている。

最後に、本研究を進めるにあたり、適切なお助言を頂いた先生方、研究をご支援いただいた研究員所属校の校長先生並びに教職員の皆様に心から感謝申し上げます。